

問1 平安時代中期の「国風文化」において、日本の気候や風土に合わせて発展した建築様式の説明として、最も適切なものを選びなさい。 (2025年 滋賀県公立入試 類似)

- 畳を敷き詰め、障子やふすまで部屋を細かく仕切った実用的なつくり
- 外敵の侵入を防ぐために石垣や堀をめぐらせ、壁を厚くした堅牢なつくり
- 急な傾斜の屋根を持ち、屋根裏で養蚕を行うことができる山間部のつくり
- 中心の建物から廊下を伸ばし、庭園の池を見渡せる開放的なつくり

問2 平清盛は、娘の徳子を高倉天皇に嫁がせ、その間に生まれた子供を天皇として即位させることで権力を確立しました。この時、清盛が「外戚」という立場で後見した天皇は誰ですか。 (2021年 福岡県公立入試 類似)

- 後醍醐天皇
- 崇徳天皇
- 安徳天皇
- 白河天皇

問3 平安時代初期、桓武天皇は律令制度の立て直しを図るため、地方政治の乱れを正そうとしました。その一環として、任期を終えた国司が交代する際の事務引き継ぎを厳しく審査するために設置された役職（勘解由使）の背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 富山県公立入試 類似)

- 国司が交代する際に不正を行い、私腹を肥やすなどの問題が多発し、税の徴収に支障が出ていたため
- 国司が東北地方の蝦夷と独自に和平交渉を行い、朝廷への納税を免除する約束を交わしていたため
- 国司が九州の沿岸警備を担当する防人の指揮を拒否し、地方の守りが弱体化していたため
- 国司が中央政府の許可を得ずに独自の軍隊を組織し、平安京の警護を脅かす事態となっていたため

問4 日本の有形文化財の分類において、奈良県の東大寺の大仏と並び、東北地方の代表的な歴史的建造物として岩手県に現存する中尊寺金色堂があります。この建物を建立し、本拠地である平泉を拠点として12世紀に三代にわたって繁栄した一族を選んでください。 (2024年 愛知県公立入試 類似)

- 奥州藤原氏
- 北条氏
- 平氏
- 太宰府の官人

問5 平清盛が行った、武家政権としての経済的な基盤を強化するための政策として最も適切な説明を、次の中から選びなさい。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)

- 新皇と自称して関東に独自の朝廷を樹立し、地方独自の税制を確立しようとした。
- 全国に守護と地頭を設置し、各地の軍事権と警察権を掌握することで徴税を安定させた。
- 有力な御家人による合議制を導入し、裁判の公平性を高めることで経済活動を活性化させた。
- 現在の神戸市にあたる大輪田泊を修築し、中国の宋との貿易を積極的に進めて富を蓄えた。

問6 摂政・藤原道長の子である藤原頼通は、京都の宇治に阿弥陀堂を建立しました。池の中島に建てられ、屋根の上に鳳凰が据えられたこの「平等院鳳凰堂」という建築物は、当時のどのような思想や背景を反映して造られたと考えられますか。最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 新潟県公立入試 類似)

- 浄土信仰に基づき、人々が憧れた極楽浄土の様子をこの世に再現しようとした
- 遣唐使が廃止されたことで、大陸の影響を完全に排除した日本独自の寺院様式を確立しようとした
- 武士が政治の実権を握り始めたため、質素で力強い建築様式を民衆に示そうとした
- 日本全国に仏教を広めるための拠点として、地方から役人を呼び寄せる講堂として活用しようとした

問7 平安時代、894年に遣唐使が停止されたことをきっかけとして、日本独自の風土や感覚に合わせた文化が発達しました。この文化の名称として正しいものはどれですか。 (2021年 福岡県公立入試 類似)

- 飛鳥文化
- 桃山文化
- 国風文化
- 天平文化

問8 11世紀後半から始まった、天皇が位をゆずって上皇（太上天皇）となったあとも、引き続き政務を執り行う政治の形態を何と呼びますか。 (2019年 和歌山県公立入試 類似)

- 公武合体
- 院政
- 親政
- 摂関政治

問9 平安時代の中期、遣唐使の廃止などを背景に、日本の風土や生活に合わせた「国風文化」が生まれました。この時代に、漢字を簡略化したり一部を用いたりして考案された、日本語の音を表記するための文字を何といいますか。 (2016年 京都府公立入試 類似)

- 万葉仮名
- 甲骨文字
- かな文字
- 梵字

問10 東北地方に独自の文化を築いた奥州藤原氏が、鎌倉時代初期に滅亡へと追い込まれた背景について述べたものとして正しいものはどれですか。 (2021年 大阪府公立入試 類似)

- 源頼朝と対立した源義経をかくまったことを理由に、軍事攻撃を受けたため
- 自由な商工業を重視する政策が、当時の朝廷が定めた律令制度に違反したため
- 足利尊氏による新しい政治体制の樹立を拒み、武家勢力の反感を買ったため
- 鎌倉幕府を樹立しようとする平清盛の勢力拡大に巻き込まれたため

問11 平安時代に行われた「院政」と「摂関政治」の違いについて述べた説明として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 栃木県公立入試 類似)

- 院政は聖武天皇が仏教の力で国を治めようとした政治であり、摂関政治は白河上皇が始めた新しい政治体制である。
- 院政は平氏や源氏などの武士が中心となって行う政治であり、摂関政治は公家を中心となって行う政治である。
- 院政は鎌倉に幕府を開いて行われた政治であり、摂関政治は京都の御所を中心に行われた政治である。
- 院政は天皇が位を譲って上皇となった後に実権を握る政治であり、摂関政治は藤原氏が摂政や関白として政治を行う体制である。

問12 平安時代初期、桓武天皇の命を受けた坂上田村麻呂が東北地方への遠征を行った理由と、その際に与えられた役職の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2018年 千葉県公立入試 類似)

- 全国の戸籍を作成し租税を徴収するため、国司（こくし）に任命された。
- 北九州の防備を固めるため、防人（さきもり）に任命された。
- 近畿地方の寺院の勢力を抑えるため、関白（かんぱく）に任命された。
- 東北地方の蝦夷（えみし）を服従させ支配を広げるため、征夷大將軍に任命された。

問13 8世紀には漢字の音や訓を借りて日本語を表記する「万葉仮名」が用いられていましたが、10世紀から11世紀にかけて『源氏物語』などの文学作品が生まれる中で、日本独自の感情を細やかに表現するために広く普及したものは何ですか。 (2016年 秋田県公立入試 類似)

- 武士が戦功を記録するために考案した「記号文字」
- 僧侶が経典を読み解くために新しく発明した「梵字（ぼんじ）」
- 大陸の言葉をそのまま公用語として用いるための「漢文体」
- 漢字を簡略化したり一部を抜き出したりして作られた「かな文字」

答え合わせ・解説

問1	答え 4 中心の建物から廊下を伸ばし、庭園の池を見渡せる開放的なつくり	遣唐使の廃止によって日本の独自の文化である「国風文化」が発達しました。寝殿造は、壁が少なく御簾（みす）や屏風で空間を仕切る開放的な構造が特徴です。これは、日本の夏の蒸し暑さをしのぐための工夫でもありました。他の選択肢にある「畳を敷き詰め、障子やふすまです仕切る」形式は、のちの書院造の特徴です。
問2	答え 3 安徳天皇	平清盛は、自身の娘である徳子を天皇の后とすることに成功しました。徳子と高倉天皇の間に生まれた子が安徳天皇です。清盛は、自分の孫にあたる安徳天皇を即位させることで、天皇に近い親族（外戚）として政治に大きな影響力を及ぼしました。これにより、平氏は「平氏にあらざれば人にあらず」と言われるほどの全盛期を築くことになります。
問3	答え 1 国司が交代する際に不正を行い、私腹を肥やすなどの問題が多発し、税の徴収に支障が出ていたため	律令制度が始まってから年月が経つにつれ、地方政治を担当する国司の間で公金の着服や公文書の捏造といった不正が目立つようになりました。桓武天皇は、こうした政治の腐敗を正して国家の収入を安定させるため、国司の交代時に厳しいチェックを行う勘解由使を設置し、地方行政の引き締めを図りました。
問4	答え 1 奥州藤原氏	現在の岩手県平泉町を本拠地とした奥州藤原氏は、清衡、基衡、秀衡の三代にわたり、東北地方で独自の文化を築き上げました。中尊寺金色堂は、その繁栄を象徴する豪華な阿弥陀堂であり、奥州で産出された豊富な金がふんだんに使われています。選択肢にある太宰府は九州の政治拠点であり、平泉とは地理的に全く異なる場所です。
問5	答え 4 現在の神戸市にあたる大輪田泊を修築し、中国の宋との貿易を積極的に進めて富を蓄えた。	平清盛は、武力だけでなく経済力も重視しました。現在の神戸市にある大輪田泊（兵庫の港）を大規模に改修し、中国の宋との間で日宋貿易を推進しました。この貿易によって大量の宋銭や高級品がもたらされ、平氏が権勢を誇るための大きな財源となりました。
問6	答え 1 浄土信仰に基づき、人々が憧れた極楽浄土の様子をこの世に再現しようとした	平等院鳳凰堂は、当時盛んであった浄土信仰の集大成ともいえる建築物です。貴族たちは末法思想による不安から、死後の救済を強く願っていました。そのため、藤原頼通は阿弥陀如来像を安置した豪華な阿弥陀堂を、池を中心とした美しい庭園の中に配することで、経典に描かれた「極楽浄土」の世界を具体的に表現しようとしたのです。これは平安時代の国風文化を象徴する出来事でもあります。
問7	答え 3 国風文化	菅原道真の建議によって遣唐使が停止されたことで、中国（唐）の影響を受けつつも、日本の風土や生活感覚に合わせた独自の「国風文化」が開花しました。この時期には、漢字を簡略化した「かな文字」が発明され、日本人の心情を豊かに表現できるようになりました。
問8	答え 2 院政	白河上皇が1086年に始めた政治体制です。それまでの藤原氏が摂政や関白として権力を振るった「摂関政治」とは異なり、天皇の位を後継者に譲ったあとの「上皇」が、独自の役所（院庁）を置いて実権を握り続けました。これにより摂関家の影響力を弱める狙いがありました。
問9	答え 3 かな文字	平安時代、これまでの中国文化を十分に吸収した上で、日本独自の文化である国風文化が成立しました。漢字を崩して書いた「ひらがな」や、漢字の一部をとった「カタカナ」からなる「かな文字」が使われるようになったことで、日本人の繊細な感情や生活の様子を表現できるようになりました。
問10	答え 1 源頼朝と対立した源義経をかくまったことを理由に、軍事攻撃を受けたため	源頼朝は、対立した弟の源義経が平泉へ逃げ込んだことをきっかけに、奥州藤原氏への攻撃を開始しました。しかし、その背景には義経の保護という口実だけでなく、当時東北地方で独立した強大な勢力を持っていた奥州藤原氏を排除し、全国的な支配を確立したいという頼朝の政治的な目的がありました。
問11	答え 4 院政は天皇が位を譲って上皇となった後に実権を握る政治であり、摂関政治は藤原氏が摂政や関白として政治を行う体制である。	摂関政治は、藤原氏が娘を天皇の妃にし、生まれた子を天皇に立てて、その母方の祖父（外戚）として摂政や関白の地位に就き実権を握る仕組みでした。これに対し、院政は藤原氏と血縁関係の薄い後三条天皇の後の白河上皇が、藤原氏の影響を排除するために自ら政治を主導した仕組みを指します。
問12	答え 4 東北地方の蝦夷（えみし）を服従させ支配を広げるため、征夷大將軍に任命された。	律令国家の体制を整えようとした朝廷は、支配が及んでいなかった東北地方へ勢力を拡大しようとしていました。桓武天皇によって征夷大將軍に任命された坂上田村麻呂は、胆沢城（現在の岩手県）を築くなどして、東北地方北部まで朝廷の支配領域を広げる役割を担いました。
問13	答え 4 漢字を簡略化したり一部を抜き出したりして作られた「かな文字」	国風文化の大きな特徴の一つに、日本独自の文字である「かな文字（平仮名・片仮名）」の普及があります。それまでの万葉仮名に比べ、日本語の音や微妙な感情を表現しやすくなったため、紫式部の『源氏物語』や清少納言の『枕草子』といった、優れた女流文学が数多く生み出されました。これは文化が「大陸の模倣」から「日本の生活に根ざしたもの」へ変化した象徴的な出来事です。